

Nami-Aru? / Internet

「幻の写真」

文:ジョージ・カックル

七里ヶ浜の海を毎日、朝晩撮り続け、ウェブに載せている地元のカメラマンがいる。サイト名は「スターボード気まぐれギャラリー」。景色だけではなく、ビーチで過ごすカップルや家族、サーファーたちなど、その日の七里ヶ浜の様子が見て取れるようなビジュアルになっていて、湘南ではよく知られたサイトである。僕も載ったことがあり、記念にプリントアウトした思い出がある。また、“自分も載りたい!”という声もよく聞く。この間、友人の一人が、あるサーファーの女の子軍団にこんな声を掛けられた。

「アタシたちも載りたいんですけど、どうしたらいいの？」

友人はこう応えた。

「ビキニで海に入れば、撮ってもらえるんじゃない？」

立派なセクハラに聞こえるが、そう答えた友人も、女の子だからセクハラは成り立たない。

で、その気になった彼女たちは超ビキニで七里ヶ浜を訪れ、写真を撮ってもらおうべく、サーフィンをしていたらしい。しかし、一番乗り気だった女の子は、海でサーフボードを流してしまい、男のサーファーの頭にぶつけてしまった。傷口が深く、病院に運ばれたのだが、こともあろうか、その女の子は写真を撮られたさに、付き添って行った病院からまたもや海に舞い戻ってサーフィンを続けた。で、どうなったか。その日の夜、アップされた写真には、その女の子のサーフィン姿は一枚も載ってなくて、サーフボード片手にビーチでにっこり笑う写真がおさまっているだけだった。それもボードはサーファーにぶつかったために欠けてしまっていた。うわさによれば、欠けたところには、まだ男の子の髪の毛が挟まっていたらしい。ああ、コワイ。血だらけの男の子をよそに海へ戻る、女の執念。それでも笑う虚栄心。

とはいえ、その話を聞いて、僕はあることを思い出した。20年ぐらい前のことだ。サンフランシスコのオーシャンビーチでのこと。今日は波がいいと聞いた僕らは、サーフボードを持って海に駆けつけた。しかし、波が大き過ぎて、誰も入っていない。かろうじて入れるのは、1キロ先ぐらい沖のポイントだったが、それでも人間の3~4倍はある波だった。「これじゃ、帰ろう」と友人と話していたが、ふと横を見るとカメラマンがいた。彼は、そのポイントに入っている3人のサーファーを撮っていた。有名なビッグウェイバー、マーク・レネカーも入っていた。

「よし、僕も海に入って写真を撮ってもらおう」。よからぬ欲が沸いてきた。友人は、「入らない」といって、車に戻った。僕はウエットを着てボードを持って、波打ち際まで歩いていったが、そこで僕は弱腰になった。なんとって、波打ち際の波なのに、天井ぐらいの高さで、波が砂浜にポッコンポッコン打ち付けているんだから、たまったもんじゃない。「これで入るのか!？」。でもウエットに着替えたし、サーフボードまで持ってきちゃっ

たし、これで戻ったら最高に恰好が悪い。車を振り返れば、「ホントに入るのかよ～」と、友人のニヤニヤしている顔が見えた。

想像してみしてほしい。こんな、にっちもさっちもいかない状態。すると、立ちつくす僕の横に、知り合いのベテランサーファーが現れた。「おもしろそうな波じゃん」。そういつて、彼は波のドアを開けるように、波の向こうに飛び込んで行ってしまった。僕も何くそと思いながら、海へ入った。でも波に巻かれながらだったから、沖に出るまでに30分はかかった。

僕が持っているボードのなかでは一番長いものを持っていったが、ほかのサーファーたちはもっとずっと長いボードだった。「オマエ、そんなんでやるの?」。視線がそう語っていた。実際に入ってみたら、身長4倍はあった。でも2時間がんばって、4本乗った。

結構大きな波に乗ったし、これであのカメラマンも僕を撮ってくれたに違いない。そう確信した僕は岸に戻ってきた。「どんなのが撮れてるかなあ?」。いい気持ちになっている僕に、友人はこんな言葉を浴びせた。「今の撮れてなかったよ」。フィルムが巻き戻っている最中にカメラマンがふたを開けてしまい、撮ったフィルムが全部パーになってしまったという。FUCK YOU! なんだよ、せっかくあんな怖い思いをして入ったのに!!

しかし、写真のために海に入るなんて、邪道だったんだ、と気付いた。サーフィンはそのような欲をかいちゃいけない。もっとシンプルに楽しむものだ、と。

こんな話し、女の子たちの話しを聞くまで、まったく忘れていたけどね。僕は彼女と同類か? いや、違うだろう。僕はもうちょっと別の意味でバカだった。

余談だけど、身長4倍もの波にのった僕は自信がついて、それ用のサーフボードも買った。でも僕はもう二度と、そんな波に乗ることはなかった。

George Cockle:

音楽プロデューサー、DJ。毎週日曜日午前9時～午後1時、InterFM(76.1MHz Tokyo、76.5MHz Yokohama)で「ジョージ・カックルのレイジー・サンデー」を放送中。